



うしおのよい子



尼崎市立 潮 小学校



春を迎えるために

校長 南川 貴子

早いものでもう2月です。南門にある梅が咲き始め、校庭を彩っています。冬らしい厳しい寒さの日もあれば、春が来たのかと思うほどぽかぽかする日もあります。2月4日は立春。季節は春へと向かっています。

校庭では、1年生が植えたチューリップの球根から、芽がちょこんと顔を出しています。葉っぱが全部落ち、寒そうに立つ桜の木の枝には新しい芽が膨らみ始めています。見た目には何も変わらないように見えても、寒い寒い冬の時期に、地中にしっかりと根を張り、水分や養分を吸収し、芽を出すエネルギーをためているのです。きれいな花を咲かせる準備をしているのです。

学校でも、2月、3月は一年間のまとめと、次年度に向けての準備をする時です。春にきれいな花を咲かせるために、気持ち良いスタートを切れるように、今、できることをしっかりとやり遂げましょう。



頭と体を使う体験と学び

今年度は、学校行事や様々な取り組みが制限なしで行えることが増え、日常を取り戻してきたように思います。学年を超えた関わり、体験的な活動ができるようになってきました。コロナ禍でICTの活用が進み、情報が簡単に得られるようになり、見たことや聞いたことがないものも、映像や動画で見て、知ることができるようになりました。それはとても便利で、知識を得る手段の一つではあると思います。しかし、それは本当の意味で「知っている」ことになるのでしょうか。

例えば、1年生の生活科では朝顔を育てます。植物の様子を動画で見て、その生長を知ることができます。ですが、朝顔のつるがどのように巻いているのか、葉っぱの産毛がチクチクしたこと、種を取るときのパチンとはじける感触、種の質感など、育てて、触って、体験しないとすることができないものがたくさんあります。触れて感じた感触を言葉にすることで、その言葉は経験に基づいた豊かなものになります。

神戸新聞の教育欄に、「真の教養を身に付けるには」という記事がありました。その中で「教養」というものについて次のように話しています。(一部抜粋)

・・・では、教養とは何かというと、知識そのものというより、その人の「考え方」なのではないかと思います。様々な知識を土台にしていかに自身の考え方を磨いてきたのか、そのような過程を通じてどのような価値観を身につけてきたのか、それこそが教養と呼べるものなのではないでしょうか。そう考えると、役に立つことだけでなく失敗も含めて豊富な経験を積み重ねることが不可欠です。たくさんのチャレンジをし、たくさんの本を読み、たくさんの人と密なコミュニケーションをし、人と人とのつながりを広げる努力をする。そういった、自身の頭と体を使った実体験の量、つまり「生きている過程」の充実が教養を育む土台となるのです。「何を学んだのか」も大切ですが、それ以上に「どのようにして学んだのか」が重要なのです。(希学園理事長兼学園長 黒田 耕平)

小学校時代は知らないことや経験できていないことが多いので、幅広い知識を身に付けることは大切です。そして体験を通して、感じたこと、不思議だなと思ったことを自分で調べたり、友だちと対話したりすることで、視野を広げ、思考力を鍛えることにつながっていきます。体験は学校だけでなく、家庭でも役割を与え、お手伝いなど、家族のための仕事として様々な経験をさせていただけたらと思います。

2月の行事

- 2月 2日 (金) 地区別バスケットボール大会
- 5日 (月) 朝会・委員会
- 7日 (水) 小田高校外国語交流 (6年)
- 8日 (木) 代表委員会
- 9日 (金) 入学説明会
(1年生のみ13:30頃下校)
- 11日 (日) 建国記念の日
- 12日 (月) 振替休日
- 13日 (火) 児童朝会
- 14日 (水) 校外学習 (うしお学級)
- 19日 (月) 感謝の会・クラブ
- 21日 (水) 社会見学 (4年)
- 22日 (木) 参観・懇談
- 23日 (金) 天皇誕生日
- 27日 (火) 金曜校時
- 29日 (木) 児童会役員選挙

3月の主な行事

- 3月 15日 (金) 給食最終日
- 18日 (月) 4時間目終了後下校
- 19日 (火) 卒業証書授与式 (6年)
(1~4年生は、お休みです。)
- 20日 (水) 春分の日
- 21日 (木) 4時間目終了後下校
- 22日 (金) 4時間目終了後下校
- 25日 (月) 修了式 12時ごろ下校

■小田地区バスケットボール大会 (6年生)

2月2日 (金) 男子 2組 出場
女子 1組 出場

会場：清和小学校

※保護者の方の来場はできませんので、ご了承ください。

■尼崎市合奏連盟定期演奏会

2月3日 (土) 金管バンド
あましんアルカイックホール
14時30分 開演 (午後の部)

■入学説明会

2月 9日 (金) 14時~15時
本校 体育館
新入生の保護者の方を対象に行います。
(1年生のみ13:30頃下校)

2月の生活目標

外で元気よく

遊ぼう

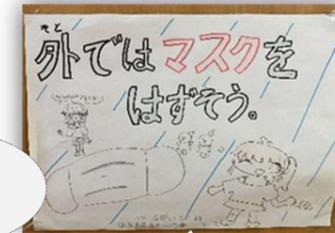


委員会活動頑張っています

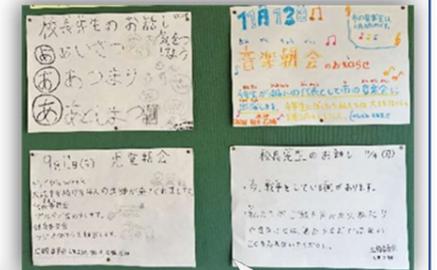
5・6年生は、委員会活動で、学校全体に関わる仕事をしています。毎日任された仕事をするのもあれば、子どもたちが学校をよりよく過ごせるように考えた企画もあります。頼もしいですね。



環境美化委員会



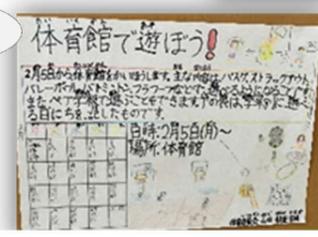
保健委員会



広報委員会

体育委員会

給食委員会



防災訓練 ～1.17は忘れない～

1月17日に防災訓練を行いました。地震と津波の避難訓練の後、教室に戻り、実際に阪神・淡路大震災を経験した南島先生のお話を聞きました。子どもたちは、大きな地震を体験したことはありません。ですがこの度の能登の地震のニュースや南島先生の体験談を通して、自分なりに受け止め、被災された方の想いや、防災について考えるきっかけになったと思います。その後、黙とうを行いました。ご家庭でも、地震が起きたときの行動や家族の約束などについて話すきっかけにいただけたらと思います。



1月17日の朝は、今日のように寒い朝でした。当時中学生だった私は、神戸市の長田区というところに住んでいました。地震の起こった日は、2階の自分の部屋に一人で寝ていました。突然大きなドンという音がして部屋中が揺れ始めました。部屋には本棚がたくさんありましたが、その本棚の本が本の上に乗って全部落ちてきて、最後に本棚が倒れてきました。私はとっさに布団の中にもぐって身を守りました。

揺れが収まっても、何か起きたかわかりませんでした。布団の中から起きだして電気をつけようとしたのですが、電気が止まってつきませんでした。家の中も窓の外も真っ暗でした。部屋の戸を開けて廊下に出ようとしたのですが、廊下に物が落ちてドアが開きません。お父さんが物をどかしてくれて、ようやく部屋の外に出ることができました。

家の中は、物が散乱して歩くこともできませんでした。食器はほとんど落ちて割れていて、テレビは揺れて飛んで、3メートルくらい離れたところに落ちていました。裸足で歩くとガラスが刺さるかもしれないので、お母さんにスリッパと靴下をはきなさいと言われました。

7時くらいになってようやく外が明るくなってきたとき、大変なことが起こったとわかってきました。外に見回りに言ったお父さんが帰ってきて「全部信号が止まっている。もうむちゃくちゃや」と言いました。テレビがつかないので、ラジオの周りに集まってニュースを聞きました。大きな地震が兵庫県の広い範囲で起こっていることがわかりました。また大きな地震が起こるかもしれないとニュースでは言っていて、とても怖かったです。

そのあと、お母さんに近所に住むおじいちゃんとおばあちゃんの様子を見に行き、と言われたので、家を出て見に行きました。お父さんの言ったとおり、町はむちゃくちゃでした。信号がついてない道路をたくさん車が走り、その車の間をすりぬけるようにして人が歩いていました。高速道路のコンクリートがはがれて地面に落ちていました。屋根が傾いている家や、一階部分が潰れた家もたくさんありました。

幸いにも、おじいちゃんとおばあちゃんは無事でした。私は友達の家はどうなったんやろと思い、友達の家に向かいました。

友だちの家の近くに、菅原商店街という名前の商店街がありました。商店街の中では、朝早くからお店の準備をしていて、そこに地震がおこったので、使っていた火から火事が起こりました。わたしが通りかかった時は、一軒の店が燃え始めていて、まだ火はそこまで大きくありませんでした。一階の壁くらいの高さでした。でも水道がこわれて水が止まっているので、誰も火を止めることができません。何百人という大人がいましたが、みんな家やお店が燃えるのを見ているだけでした。消防車も来ましたが、消火栓が壊れていてやっぱり水が出ませんでした。火はどんどん大きくなっていて、隣の家にも移りました。みんな見ているだけしかできませんでした。あとで、友達の家がその火事で焼けて、友達の弟が亡くなったことを知りました。

悲しいことが多かった地震ですが、心に残ったこともありました。

ある友達は、家の屋根がこわれて家に住めなくなって、区役所の入り口のロビーに布団をしいて寝ていました。地震から何日かたって、その友達が家に来ました。友達は、カップラーメンをいっぱい入れた紙袋を持っていました。そして、「家に食べ物ないやろ。これ、お母さんにあげなさいって言われて持ってきたよ。」と言って、カップラーメンをくれました。わたしはびっくりして、紙袋を返しました。家がなくなっている人から、食べ物をもらえないと思ったからです。でも友達は、「私は避難所にいるから、食べ物が一番に配られるねん。家にいる人には食べ物が配られへんやろ。だから困ってるかな、とって。」と言いました。自分の家がなくなっているのに、他の困っている人のことを考えられるんだ、と私はびっくりしてしまいました。

他にも、私たち家族が一週間以上、お風呂に入っていないことを知って、「お風呂入りにおいでよ。」と誘ってくれた友達もいます。2時間以上歩いて友達の家に行きましたが、お風呂に入れた時は本当に気持ちよくてうれしかったです。

先生から皆さんに伝えたいことが2つあります。

1つ目は、地震は突然おきるということです。地震は明日おきるかもしれないし、もしかすると今日おきるかもしれません。いざという時のために、しっかり訓練して命を守ってほしいです。また、地震がおこったあとにも備えて、家で避難の準備をしたり、家族で避難場所についてしっかり話し合ったりしてほしいです。

2つ目は、みんなで助け合うということです。

阪神淡路大震災の時、私はたくさんの人に助けられました。私は中学生だったので、助けられることが多かったですが、今なら何ができるかなと考えています。そして、自分が困っている時でも、他の困っている人のことを、少しでも考えられる人になってほしいなと思っています。

あふれてくる涙をこらえながら話してくださった南島先生の言葉を、子どもたちも静かに聞いていました。人の心の痛みに共感し、助け合う大切さ、防災への思いを感じてくれたことと思います。貴重な時間となりました。